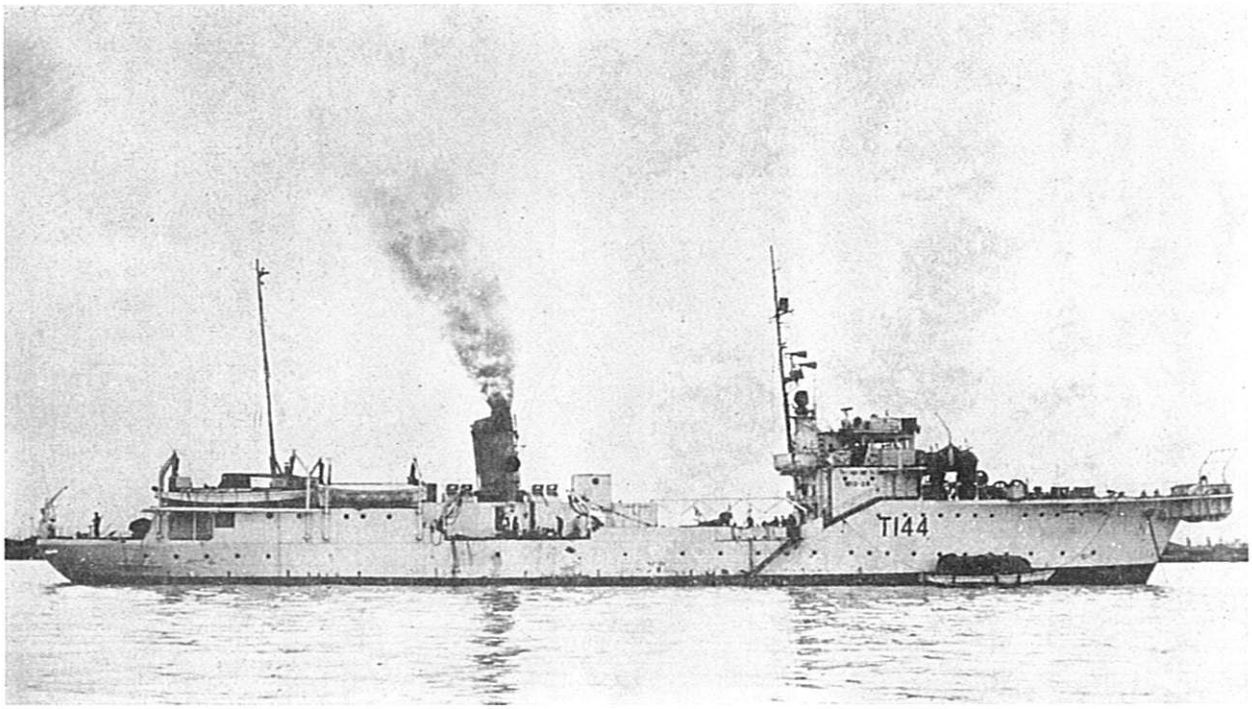
釣島丸

(1941.12～1968.3)



主要目	
建造所	神戸川崎重工
進水年月	1941.5.24
航行区域	近海区域
総トン数	1,160.58トン
長さ	76.80m
幅	10.80m
主機関出力	1,700HP
速力(最大)	13.0ノット

本船は、終戦当時、制式敷設船のすべてを失っていた逓信省が、連合軍に接収されていた本船に目をつけて接収解除を要請、昭和20年10月、大蔵省第2復員局より貸与された旧海軍電纜敷設艇「釣島」を改造したものです。釣島は、昭和16年5月神戸川崎造船所で建造され、戦没することなく無事に生きのび、戦後は連合軍の管理下に置かれましたが、昭和26年9月8日、対日講和条約調印後「非戦闘用小型船舶」として日本政府に返環され、昭和28年3月31日日本電信電話公社に所管替えとなって、海底線施設事務所所属敷設船「釣島丸」となったものです。

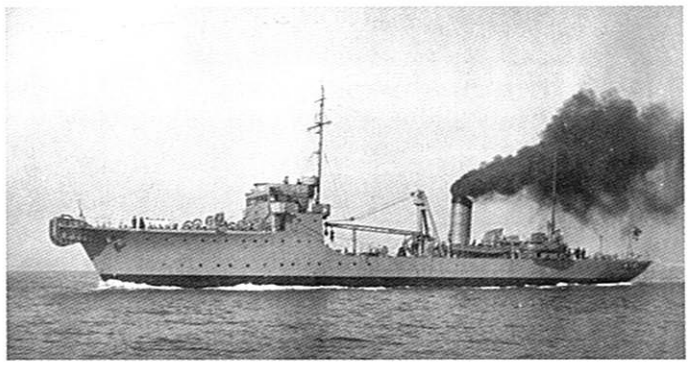
昭和43年2月、入渠修理中にプロペラ全面に亀裂が発生しているのが発見され、この修理には相当な日数と経費を要すること、また海底ケーブルも鉛被紙ケーブルから同軸ケーブルに変わりつつあること等により、昭和43年6月廃船が決定し、27年余に及ぶ生涯を閉じました。

本船は、就役中数々の業績を残していますが、特に、

1．昭和39年5月15日の利尻島沓形町大火の救援活動。
2．昭和40年1月2日の伊豆大島元町の大火災害復旧活動。
3．昭和34年10月の伊勢湾台風災害の復旧活動。

等があげられます。

本船のこれらの活動に対しては、関係各位から多くの感謝状等が贈られています。



▲昭和16年5月、海軍電纜敷設艇として就役前、海上公試時の「釣島」。
(KKベストセラーズ「写真集 日本の軍艦」より。
福井静夫氏所蔵)

◀腰まで海につかりケーブルを管路に通す。

▲戦後唯一の大型敷設船「釣島」が荒廃した海底ケーブルの復興に。
「津軽海峡、山崎～当別」に、1.6mm8対無装荷搬送ゴム鉛被海底ケーブルの敷設にいどむ「釣島丸」

※昭和34年10月、伊勢湾台風により、愛知、三重、岐阜県が空前の被害を受けた。「釣島丸」は急拠横浜を出発、伊勢湾に急行し乗組員一丸となって救援活動に従事した。

▲冠水した道路らしき所をケーブルを引っ張って行く乗組員。(筏に乗り弥富より敷設開始)

▲見わたす限り水と家屋、微速でケーブルを敷設しながら進む、作業艇。

▲伝馬船に応急ケーブルを積込み、作業艇で曳航敷設中。